

【樹木の部屋】

コウヤマキ (コウヤマキ科コウヤマキ属 *Sciadopitys verticillata*)

和名：コウヤマキ (高野槇、高野榎) **別名**：ホンマキ、トウマキ

英名：Japanese Umbrella-pine

マツ目 常緑針葉高木

原産地：日本、韓国

花言葉：奥ゆかしさ **花色**：



← 写真-1 コウヤマキの幼木

撮影日：2019年07月08日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

↘ 写真-2 コウヤマキの葉

撮影日：2019年07月08日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-3 コウヤマキの小枝

撮影日：2019年07月08日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



↑ 写真-4 コウヤマキの
葉表(上)と葉裏(下)

撮影日：2019年07月08日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

← 写真-5 コウヤマキの小枝先端

撮影日：2019年07月08日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

葉は肉厚ですが、柔らかくしなやかで、表面に鈍い光沢があります。表裏とも中央に溝があり、先端は少し窪んでいます。また葉の裏面には帯白色の気孔帯が見られます。短い枝では2本の葉が対になり、放射状に生じます。枝は先端に葉が輪生しているように見えますが、実際には長枝の先端部に多数の短枝が輪生し、その先に長さ6～14cmの針葉が付いています。花は雌雄異花で早春に開花し、花の後にはマツボックリのような球果ができます。

高さ30m以上、直径1mに達するものもあるそうです。特に手入れをしなくても狭円錐形の非常に整った樹冠を形成するため、造園木として重宝されています。樹皮は若枝では赤褐色ですが、後に灰褐色に変わり、古木では鱗状になります。

比較的日陰にも強い樹木ですが、日当たりの良い場所のほうが、枝葉の間隔が密に詰まった形の良い姿に育つそうです。が、株元に長時間強い直射日光が当たるような場所では極度の乾燥を防ぐために敷きワラで覆った方が良いそうです。また、西日など強い日が当たると葉が黒っぽく変色することがあるので要注意です。大気汚染には弱い樹木です。

和名は、高野山真言宗の総本山である高野山に多く生えていることに由来し、高野山では霊木とされています。庭園に植栽し、材木としても利用され、木曽五木の1つにも数えられています。かつては世界中に広く分布していたそうですが、現在は、日本と韓国の済州島にだけ残存しているそうです。

水に強くて朽ちにくいことから、現在でも湯船材や橋梁材としても重宝され、古代には、棺材として最上級とされ、弥生時代や古墳時代には木棺として用いられているそうです。

コウヤマキ科は1属1種で、コウヤマキのみを含みます。マキには他にラカンマキ、イヌマキなどがありますが、これらは剪定に強く、成長も早いことから、垣根

や目隠しとして積極的に使用されています。一方、コウヤマキは葉が細く、枝葉の密度が低いため、緻密な垣根にするには時間がかかります。なお、コウヤマキはコウヤマキ科ですが、ラカンマキ、イヌマキはマキ科で、両者に分類上の関連はありません。

植付けは12月～2月を避けた10月～3月までの間に行います。10月は生長が停止する時期に入り、3月からは新芽が伸びてくる時期に当たります。コウヤマキは移植を嫌いますが、全く出来ないということではありません。が、根回しなどの作業を半年以上前から行う必要があります、成木を移植する場合は根付きがより困難になります。植え付けるときは、植える場所を盛り上げて乾燥防止のための藁などを敷いておくとういようです。さらに、根付くまでには時間がかかるので、支柱を立てておくとういようです。

理由はよく解っていないようですが、他の木と密接するとその部分が枝枯れを起こすそうです。植え付けるときは場所や周りのスペースをよく考える必要があります。

植え付けて2～3年して芯が立ち上がってきたら、地中でメインとなる直根が元気に伸びてきた証拠です。枝はほとんど横に張らず自然でもある程度整った樹姿にまとまり、非常にゆっくり生長するのであまり手間はかかりませんが、コウヤマキの最大の魅力である美しい樹形をキープするためには不要な枝を切る程度の剪定は必要です。

剪定は「勢いの強い枝を切り戻す」「芯を間引く」の2つの作業が中心になります。作業の適期は3月下旬から4月です。

- ・勢いの強い枝を切り戻す：ところどころから勢いの強い枝が出てきて、樹形のラインから飛び出ます。そのまま放置するとラインがぼやけてはっきりとしない姿になってしまうので長く飛び出た枝は樹形のラインよりやや深い位置まで切り戻します。

- ・芯を間引く：コウヤマキは芯が多く立ちやすい性質で、芯が枝分かれして2本以上立つこともよくあります。特に若い木でよく見られるので早めに1本を残して他を切り取ります。

<ちょっと一言>

- *木曽五木：ヒノキ・アスナロ(アスヒ)・コウヤマキ・ネズコ(クロベ)・サワラで江戸時代に尾張藩により伐採が禁止された木曽谷の木。

- *高野六木(こうやりくぼく)：スギ、ヒノキ、コウヤマキ、アカマツ、モミ、ツガ

- *イヌマキ：マキ科マキ属。ラカンマキはイヌマキの変種